

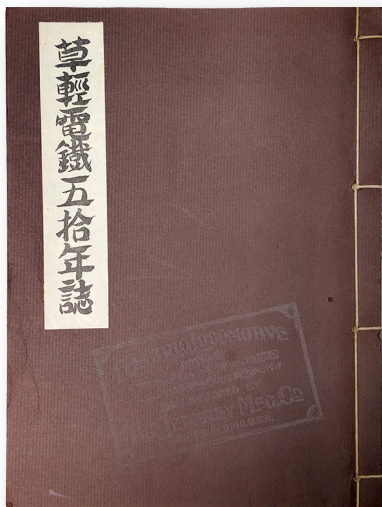
## 新収蔵資料抄

## 草軽電鉄五拾年誌

浜本幸之著 軽井沢書林 1973.8.53p 24cm K682/テ38  
2022.3.30 受入定価2,500円

## 目次

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 草軽電鉄五拾年誌        | ・草軽式除雪法            |
| 一、草津軽便鐵道時代      | ・特殊技術…脱線處理         |
| ・蒸気機関車          | ・線路に雑巾がけ           |
| 二、草軽電氣鐵道時代      | ・落雷は眠氣覚まし          |
| ・電氣機関車          | ・納涼ロマンスカー          |
| 施設及び驛           | ・駅長と學生のマラソン        |
| ・電動車            | ・切符のミスプリントなんか気にしない |
| 三、草軽電鐵の思い出      | ・特別編成VIP列車         |
| ・實力主義の會社草軽電鐵    | ・癩患者用特別列車          |
| ・弱冠式拾七歳で驛長      | ・山火事と顛覆事故          |
| 四、自然との死闘、男の汗物語り | ・GHQが怖がった草軽電車      |
| 『オレ達電車を動かした…』   | 五、日本映畫史と草軽電鐵       |
| ・哀愁の燈ランプ        | 六、草軽電鐵五拾年譜         |
| ・沿線農家の救援予備軍炊出部隊 |                    |



禁帯出 (県立図書館で閲覧できます)

## 参考文献 各データ末の数字は資料番号

- ▷『思い出のアルバム草軽電鉄』思い出のアルバム草軽電鉄刊行会／編著 郷土出版社 1987.9 02254019
- ▷『草軽電鉄の詩』思い出のアルバム草軽電鉄刊行会／編著 郷土出版社 1995.9 05462536
- ▷『思い出のアルバム草軽電鉄』(1987年刊)の改題普及版
- ▷『群馬の鉄道1884-2006』あかぎ出版 2006.11 10458024 p221-224
- ▷『軽便追想』高井薫平／著 ネコ・パブリッシング 1997.4.06 628507 p89-97
- ▷『草軽のどかな日々』宮田道一／著 ネコ・パブリッシング 2003.12 0797771
- ▷『草軽電鉄 + 栃尾電鉄』いのうえこーいち／著 こー企画 / いのうえ事務所 2021.10 17433608
- ▷『私鉄紀行下』湯口徹／著 レスアイゼンバーン 1987.2 01220367
- ▷『草軽電鉄』宮脇俊三／著 群馬県立図書館 (自館複製) 1989.9 02254100
- ▷『レイル THE rail No.85』エリエイ / プレス・アイゼンバーン 2013.1 11983137
- ▷『ローカル私鉄廃線 100線』寺田裕一／編著 新人物往來社 2000.12 08701617 p117
- ▷『群馬県百科事典』上毛新聞社 1979.2 08342685
- ▷『群馬新百科事典』上毛新聞社 2008.3 08342610
- ▷『群馬県史通史編 8』群馬県 1989.2 00415497 p703-704
- ▷『嬬恋村誌 上巻』嬬恋村誌編集委員会／編 嬬恋村役場 1977.3 00387522 p1063-1083
- ▷『長野原町誌 上巻』長野原町誌編集委員会／編 長野原町 1976.3 00387316 p784-787
- ▷『草津温泉誌 第2巻』草津町 1992.6 05225693 p177-232
- ▷『写真集明治大正昭和あがつま』金井幸佐久 / [ほか] 編 1986.12 00429241 p50
- ▷『草津郷土誌研究 1-4』草津郷土誌研究会 1964 02955045 p42-45 草軽電鉄の歩み (年表)
- ▷『ぐんまちゃんくらぶ草軽電鉄』(DVD) 群馬県教育委員会 (発行年不明) 10793479
- ▷草軽交通株式会社HP
- ▷草軽電鉄 Web 博物館 <http://www.kkkg.co.jp/museum/movie.html>

## 資料概要

草軽電鉄は軽井沢と草津温泉をつなぐ鉄路で、大正から昭和にかけて、観光や生活の足として、また産業の担い手として、人々に親しまれると同時に大きな役割を果たした。

運営会社の設立は 1912(大正元)年で、当初は軽便鉄道だったが、後に草津電氣鉄道株式会社と名称を改める。1915(大正4)年7月の新軽井沢一小瀬温泉間9.985kmの開通を皮切りに、吾妻まで(1919(大正8)年)、嬬恋まで(同年)と延伸し、1926(大正15)年には草津温泉までの総延長55.5kmの全線が開通した。草津温泉を訪れる観光客や当時沿線で採掘が盛んだった硫黄の輸送に貢献したが、国鉄との競合や台風による被害などで、1962(昭和37)年に廃線となった。

本書はこの草軽電鉄の半世紀にわたる歴史をまとめたもので、著者は軽井沢新聞社の編集長、浜本幸之(1931-1980)。営業当時の写真、従業者からの聞き書き、技術資料などで鉄道の歴史を振り返る。1973(昭和48)年の発行だが、懐古の趣を醸す和装本とした。脱線が日常茶飯事だったことや、それを乗務員が直し、乗客も手伝うなど、今日では考えられない牧歌的な運行の様子が描かれ、また、吹雪で立ち往生した列車に、沿線農家の人々が温かい握り飯を届けるなど、心温まるエピソードも紹介される。

若山牧水「みなかみ紀行」、川端康成「軽井沢だより」、野上弥生子「草分」などの文学作品をはじめ、「カルメン故郷に帰る」「山鳩」などの映画にも登場している草軽電鉄。廃線後も、「西吾妻に文化を導入した動脈」(嬬恋村誌)、「高原を走る電車として、全国の旅人や鉄道ファンにロマンを与えた」(群馬の鉄道1884-2006)など、業績讃美の辞が寄せられている。それは、この鉄道に多くの人々が並々ならぬ愛情・愛着を感じていたことの証左でもある。

本紙は、県立図書館が新たに所蔵した資料(図書資料・視聴覚資料)から、ぜひご利用いただきたいものを厳選してご紹介するものです。これらの資料は、禁帯出資料を除き、最寄りの図書館に取り寄せできます。

なお、本紙の内容はWebにも掲載しています。ご覧の際は右のQRコードをご利用ください。また、内容の誤り等、お気づきの点があればお知らせくださるようお願いいたします。

